

SDGs新聞

東急不動産ホールディングス株式会社

「風」で電気をつくって、地球もここにこ

SDGsラジオを聴いてみよう！

海や山で、大きな風車が回っているのを見たことはありませんか？

あれは「風力発電」の風車で、風の力を利用して電気をつくっているんですよ。

風力は石油などとは違ってなくなることがなく、電気をつくる際に、地球温暖化の原因になるCO2を出さないのが特長で、

これを「再生可能エネルギー」といいます。

都市や住まいの開発を行う会社「東急不動産」では、再生可能エネルギー事業「ReENE(リエネ)」を立ち上げ、

風力発電や太陽光発電をはじめとした、地球にやさしいいろいろな事業を行っています。

このReENEでは、北海道の松前町と協力して、「リエネウインドファーム松前」という、

風力発電所と農園、公園などが一体化した施設をつくるなど、地域の人々と街づくりにも取り組んでいます。

みなさんが毎日使っている電気は、どこでどのようにしてつくられているのか、一度調べてみましょう。

SDGsラジオの内容を、もっと詳しく知ろう！



画像参照：太陽光発電・風力発電のイメージ写真
(東急不動産公式HPより)

現在の日本では、電気をつくるために使われている燃料の約7割を石油や石炭といった「化石エネルギー」が占めています。日本は元々エネルギー資源に乏しく、化石エネルギーの多くを海外からの輸入に頼っています。しかし、化石エネルギーには限りがあるので、いずれ尽きてしまいます。そのため、今後は太陽光や風力、バイオマス燃料などの自然の力を用いた「再生可能エネルギー」を活用することが重要です。再生可能エネルギーは、化石エネルギーのように尽きることがなく、さらに地球温暖化の要因となる温室効果ガスをほとんど排出しないため、非常に優れたエネルギーであると言えます。



画像参照：「リエネウインドファーム松前」のイメージ画像
(公式HPより)

そこで、都市や住まいの開発を行う会社「東急不動産」では、「地球環境を少しでも良くしたい」との思いから、再生可能エネルギー事業「ReENE(リエネ)」を立ち上げました。ReENEでは、風力発電や太陽光発電、バイオマス発電を利用した地球にやさしいさまざまなプロジェクトを行っています。そのひとつが、北海道の松前町と協力して開園した「リエネウインドファーム松前」です。これは風力発電所と畑、農業体験ができる農園などを一体化させた施設で、地域の発展にもつながっています。地球にやさしく、さらに、地域も元気に。東急不動産は、このリエネウインドファーム松前を通じて、環境保全とまちづくりの両方の視点から、SDGsの達成に貢献しています。

キーワード

エネルギー資源

電気や熱をつくるために使われる資源です。石油や石炭、天然ガスなどの化石燃料、太陽光や風力などの自然の力がエネルギー資源として使われます。

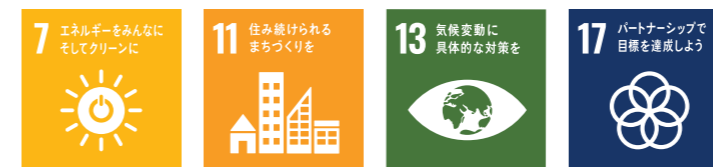
バイオマス燃料

木のくずや動物のフンなど、動植物が持つエネルギーを利用した燃料のことで、

松前町

北海道の渡島半島南西部にある町で、江戸時代は松前藩の城下町として栄えました。現在は桜の名所としても有名です。

対象ゴール



みなさんにできること！

再生可能エネルギーをもっと世の中に広げるには、どうすればいいか考えてみましょう。

おさらい

- 太陽光・風力など自然の力を利用したエネルギーを「再生可能エネルギー」という。
- 再生可能エネルギーは、「なくなるない・地球温暖化の防止に役立つ」という特長がある。
- 東急不動産は、「リエネウインドファーム松前」という、街づくりにもつながるプロジェクトに取り組んでいる。

メモ

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....



SDGs ラジオ